

Title	宮地裕教授略歴/宮地裕教授執筆目録
Author(s)	
Citation	語文. 48 P.105-P.110
Issue Date	1987-02-20
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/68763">http://hdl.handle.net/11094/68763</a>
DOI	
rights	
Note	

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

# 宮地裕教授略歴

一九二四(大正一三)年一月 東京麻布三田綱町生まれ。父茂秋、母吳子、長男。

## △学歴▽

- 一九三六(昭和一一)・三 青山師範学校附属小学校卒業
- 一九四一(〃一六)・三 東京府立第一中学校卒業
- 一九四五(〃二〇)・三 第一高等学校文科甲類卒業
- 一九五〇(〃二五)・三 京都大学文学部国語国文学科卒業
- 一九五五(〃三〇)・三 京都大学大学院(旧制)退学

## △軍歴▽

- 一九四四(昭和一九)・一〇 特別甲種幹部候補生、仙台陸軍予備士官学校入校
- 一九四五(〃二〇)・六 同校卒業、兵科見習士官
- 〃(〃〃)・八 陸軍少尉
- 〃(〃〃)・九 召集解除

## △職歴▽

- 一九五二(昭和二七)・四 京都府立西京大学(現京都府立大学)文家政学部助手
- 一九五三(〃二八)・四 講師
- 一九五五(〃三〇)・四 助教
- 一九五六(〃三一)・四 国立国語研究所第一研究部話しことば研究室研究員
- 一九六五(〃四〇)・一 主任研究官
- 〃(〃〃)・四 話しことば研究室長
- 一九六七(〃四二)・四 大阪大学文学部助教
- 一九七四(〃四九)・一一 教授、現在に至る。

一九七五(〃五〇)・六 大阪大学評議員(二年)

一九八〇(〃五五)・四 〃 文学部長・大学院文学部研究科主任・評議員(二年)

一九八二(〃五七)・三 国語審議会委員(二期四年)

〃(〃〃)・六 大学設置審議会大学基準分科委員(二期四年)

非常勤講師歴 東京大学・京都大学・九州大学・神戸大学・島根大学・富山大学各文学部、早稲田大学教育学部、学習院大学・静岡女子

大学各文学部等。

その他、現在 国語審議会(第一七期)委員、国語学会理事評議員、(社)日本語教育学会理事副会長、(社)国際日本語普及協合理事、(財)

大学基準協会基準委員会副委員長、(文部省)日本語教員検定制度に関する調査研究会委員等。

一九七四(昭和四九)・三 文学博士(大阪大学)

### 同 論 著 略 目 録

△著 書▽

一九六〇(昭和三五)・三 (共著) 話しことばの文型(1) 秀英出版

一九六三(〃三八)・三 (〃〃) 〃 (2) 〃

一九七一(〃四六)・一一 文論 明治書院

〃(〃〃)・一二 現代表現考 共文社

一九七五(〃五四)・一一 新版 文論 明治書院

一九八二(〃五七)・一〇 (編著) 慣用句の意味と用法 〃

一九八六(〃六一)・一一 (編著) 論集日本語研究 (一)(二) 〃

共編講座等 講座正しい日本語(六卷)、作文講座(四卷、別卷三)、講座現代語(六卷)、口語文法講座(六卷)、講座日本語学(一二卷、別

巻一)、日本語学(月刊、刊行中)——以上明治書院——等。

△論 文▽

——文法・表現 関係——

一九五一(昭和二六)・九 疑問表現をめぐる

- 一九五二(〃二七)・九 副助詞小攷  
 〃(〃〃)・一二 否定表現の一考察  
 一九五四(〃二九)・一一 いわゆる文の性質上の種類の原理とその発展  
 一九五七(〃三二)・七 敬語の混乱  
 〃(〃〃)・一二 日本語のシンタクス  
 一九五八(〃三三)・一 ことばの使いかた 助詞・助動詞  
 〃(〃〃)・五 文と表現文  
 〃(〃〃)・八 おもな文法学説  
 一九五九(〃三四)・二 文末助辞と質問の昇調  
 〃(〃〃)・三 はなしことばの文  
 一九六〇(〃三五)・四 文脈と文法  
 一九六一(〃三六)・一一 イントネーション論のために  
 一九六二(〃三七)・一二 話しことばの文型  
 〃(〃〃)・〃 文における表現の類型  
 一九六五(〃四〇)・三 敬語の解釈  
 〃(〃〃)・四 文の分類と文型  
 〃(〃〃)・一二 「やる・くれる・もらう」を述語とする文の構造について  
 一九六八(〃四三)・一 言語と文法  
 〃(〃〃)・三 現代敬語の一考察  
 〃(〃〃)・一二 敬語と文法  
 一九七一(〃四六)・三 日本語形態論の構想  
 〃(〃〃)・一一 現代の敬語  
 一九七二(〃四七)・九 助動詞とは何か  
 〃(〃〃)・一二 類義文について  
 一九七三(〃四八)・七 現代漢語の語基について
- 国語国文 二一七  
 京都府立西京大学 人文 二  
 国語国文 二四三  
 言語生活 七〇  
 講座 現代国語学 二  
 日本文法講座 五  
 国語国文 二八五  
 国語教育のための国語講座 五  
 ことばの研究 一  
 言語生活 九〇  
 講座 解釈と文法 七  
 国語国文 三二七  
 日本語教育 一  
 NHK文研月報 一四四  
 ことばの研究 二  
 口語文法講座 二  
 国語学 六三  
 講座 日本語の文法 一  
 国語学 七二  
 月刊文法 二  
 文科系学会連合研究論文集  
 講座 国語史 五  
 品詞別日本文法講座 七  
 語文 三〇  
 語文 三一

〃 (〃〃)・一二	語構成
一九七四 (〃〃)・一二	言語観の問題
一九七五 (〃〃)・三〇・三	日本語の表現の類型
〃 (〃〃)・一〇	話しことばと日常生活
一九七六 (〃〃)・五二・三	待遇表現
〃 (〃〃)・一二	事実から推論へ
〃 (〃〃)・一二	日本語の文法単位体
一九七七 (〃〃)・五二・二	言語活動における表現と理解
〃 (〃〃)・三	現代洋語の構成
一九七七 (〃〃)・五二・六	文学作品の語学的考究ということ
〃 (〃〃)・九	言語活動としての表現の構造
一九七八 (〃〃)・五三・八	モーフ (morph) の論
〃 (〃〃)・一二	擬音語・擬態語の形態論小考
一九七九 (〃〃)・五四・一	現代語の語構成
一九八一 (〃〃)・五六・一二	敬語史論
一九八三 (〃〃)・五八・一二	二文の順接・逆接
一九八四 (〃〃)・五九・六	主語・主題・提示語・総主語
〃 (〃〃)・八	倒置考
一九八五 (〃〃)・六〇・五	言語表現とは何か
—— 文章・文体・語彙・意味関係 ——	
一九五五 (昭和三〇)・一〇	大岡昇平の文章
一九五六 (〃三)・一一	対談の文体論的考察試論
一九五八 (〃三三)・八	職業とコトバ
一九六〇 (〃三五)・七	文章論の諸学説と研究の現段階
一九六一 (〃三六)・二	現代語・言語生活研究の歴史

日本語と日本語教育	二
高等学校国語科教育研究講座	一
日本語と日本語教育	三
方言と標準語	
日本語と日本語教育	四
現代作文講座	四
岩波講座日本語	六
言語生活	三〇五
国語国文	五一三
文芸教育	二〇
国文学	三一六
論集日本文学・日本語	五
国語学	一一五
国語と国文学	六五九
講座日本語学	九
日本語学	一四
研究資料日本文法	八
日本語学	二二
講座日本語の表現	一
言語生活	四九
国語国文	二六七
コトバの科学	二
国文学	五三
国語国文学研究史大成	一五

一九六三(〃三八)・一二 話しことばと書きことば

一九六六(〃四一)・六 同音語のアクセント

一九六七(〃四二)・一一 対話の型と意義

一九六八(〃四三)・五 意味の内的感覚

一九七〇(〃四五)・五 時代と文章

一九七五(〃五〇)・一 受給表現補助動詞「やる・くれる・もらう」発達の意味について

一九七七(〃五二)・一一 文章論の視界

一九七九(〃五四)・五 文章表現の意味論

一九八二(〃五七)・一一 私の意味論

一九八四(〃五九)・一二 (文章論) シンポジウムに寄せて

一九八六(〃六一)・一一 かくれた意味について

—— 成句・慣用句 関係 ——

一九七四(昭和四九)・九 「成句」の分類

〃 (〃〃)・一二 「成句」の二三の用法について

一九七七(〃五二)・七 慣用句と連語成句

一九八二(〃五七)・六 動詞慣用句

一九八四(〃五九)・二 基本語彙・慣用句・複合語

一九八五(〃六〇)・一 慣用句の周辺 —— 連語・ことわざ・複合語 ——

一九八六(〃六一)・一 日本語慣用句考

—— 国語教育・日本語教育 関係 ——

一九六八(昭和四三)・八 指導要領での言語のあつかい

一九七〇(〃四五)・一 言語の教育の問題

一九七二(〃四七)・八 日本語語彙教育の特性

講座現代語

国語国文 三八二

言語生活 一九四

ことばの宇宙 五

文章と技法 一

鈴木知太郎博士古稀記念 国文学論叢

松村明教授還暦記念 国語学と国語史

新国語科教育講座 二一

日本語学 一

国語学 一三九

論集日本語研究(一)現代編

語文 三二二

文学語学 七四

日本語教育 三三三

日本語教育 四七

日本語学 一六

日本語学 二七

大阪大学文学部日本語・日本文化研究論集

国語の教育 四

国語の教育 二一

日本語と日本語教育 一

- 一九七四（〃四九）・一二 一二の基本問題について —日本語教師論に寄せて—  
 一九七九（〃五四）・三 中級日本語教育の問題点  
 一九八二（〃五七）・九 国語教育と日本語研究  
 一九八三（〃五八）・六 日本語教師の資格認定について  
 一九八五（〃六〇）・七 日本語教育の展望

——以上一九八六（昭和六二）年一二月現在——

- 日本語教育 二五  
 日本語教育 三七  
 講座日本語学 一  
 日本語教育 五〇  
 日本語学 三三